

## 故三木知事さんを偲んで

岡山県畜産会長 惣 津 律 士

9月21日の夜半、突如友人から、三木知事さんの御逝去を聞き、取るものも取りあえず川崎病院にかけつけました。私は両眼を閉ぢて静かに寝ておられる知事さんの御顔を拝して、どうしても知事さんの死が信じられませんでした。

23日に知事公舎で仮葬儀があつて、知事さんの柩を御見送りして、確かにおなくなりになつたと思ふようになりました。しかし時にひょっこり知事さんが現れてあのなつかしい童顔をほころばしながら「惣津君、最近顔を見せないが、どうしとつたか。体の調子はそのごどうかねえ。」と声をかけて戴いているような気がしてなりません。恐らく三木知事さんに接してこられた方々は、こういった幻想をもたれている事と思ひます。それほど知事さんは生活の中にも、心の中にも深く根をおろしておられた事を日が経つにつれて痛感するのは私一人ではありませんまい。

マグサイサイ賞の授賞は三木知事さんに取つて、生涯を通じ最高の喜びであつたように伺われました。私達農業団体の代表が御帰朝間もない知事さんを囲んでの会合の席で私が「知事さん、授賞式の模様をテレビで拝見しました。力強い、力強い、人間味のあふれた御答辞に感激しましたよ。」申しあげましたところ、大変喜ばれて「そうだったか。」と深くうなづかれ、ユーモアをまじえて式場の状況やら、着用された白服のことなどを愉快地御話になっていられました。

知事室に時折来上して、非常に短い時間ではありましたが、御声を拝聴していると、何となく自分の心が浄化されて、もりもりとファイトがわくような気がしていました。知事さんは「わしはアイデアを君達に与えるのだ、君達は一生懸命に頑張つて、それを立派に仕上げてください。」とよくいわれていたのを記憶しています。果して私は知事さんの御意志にそうしていたかどうか疑問であつて、申し訳ない気持ちで一杯であります。



知事さんに接して13ヶ年間、思い出はつきません。今日、私達県民は稀に見る偉大なる指導者を失いました。巨星地におつという言葉がありますが、まさに三木知事さんをさすのでありましょう。私達県民は心から御冥福を御祈りしたいのです。そして私達はいまこそ心をあわせて、知事さんの悲願であつた幸せな社会の建設に努力することを御霊前に御誓ひ申し上げたいのであります。

知事さん、ほんとに御苦勞様でした。どうぞゆっくりおやすみ下さい。